



## 2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年10月31日

上場取引所 東

上場会社名 日本ゼオン株式会社  
 コード番号 4205 URL <https://www.zeon.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中公章  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 曾根芳之 TEL 03-3216-2747  
 四半期報告書提出予定日 2022年11月10日 配当支払開始予定日 2022年12月2日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満四捨五入)

### 1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	197,417	10.2	20,184	△19.1	24,400	△8.2	17,419	△5.3
2022年3月期第2四半期	179,075	30.3	24,951	151.7	26,578	143.0	18,394	124.8

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 31,158百万円 (47.2%) 2022年3月期第2四半期 21,170百万円 (92.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	82.19	82.14
2022年3月期第2四半期	84.09	84.03

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	525,451	345,824	65.1
2022年3月期	484,660	321,836	65.7

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 342,097百万円 2022年3月期 318,623百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	13.00	—	15.00	28.00
2023年3月期	—	18.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	18.00	36.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	412,000	13.9	39,500	△11.1	44,500	△10.0	32,000	△4.2	151.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 有  
 連結業績予想の修正については、本日(2022年10月31日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動): 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用: 有

(注)詳細は、添付資料P.9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	229,513,656株	2022年3月期	237,075,556株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	18,235,211株	2022年3月期	22,850,333株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	211,928,863株	2022年3月期2Q	218,749,825株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法について)

当社は2022年10月31日(月)に証券アナリスト・機関投資家向け決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明資料については、開催に先立ち当社ウェブサイトに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間を振り返りますと、世界経済動向に次第に陰りが見られるようになってきたことに加え、原料、電力・エネルギー価格及び物流費を含む全世界的な物価の高騰、また依然として緊張状態にある米中関係の影響やロシアのウクライナ侵攻による影響等、当社グループを取り巻く環境としては先行き不透明な状況で推移しました。

当社グループはこのような環境のもとで、「ZΣ運動」による徹底したコスト削減や、生産革新活動に注力するとともに、エラストマー素材事業におきましては採算性の重視と生産・販売のグローバル展開、高機能材料事業におきましては付加価値の高い新製品の開発と事業拡大に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,974億17百万円となり、前年同期間に比べて183億42百万円の増収となりました。また、営業利益は201億84百万円と前年同期間に比べて47億66百万円の減益、経常利益は244億円と前年同期間に比べて21億78百万円の減益、親会社株主に帰属する四半期純利益は174億19百万円と前年同期間に比べて9億75百万円の減益となりました。

セグメントの業績は、次の通りであります。

#### (エラストマー素材事業部門)

合成ゴム関連では、自動車減産の影響を一部受けるも全体としては底堅い需要に支えられ、国内販売、輸出版売、海外子会社いずれも堅調に推移しました。また原料高騰分の価格転嫁が進んだことから、全体の売上高、営業利益ともに前年同期を上回りました。

合成ラテックス関連では、医療・衛生用手袋の流通在庫が引き続き過剰で需給が緩んだことに加え、原料高騰の影響も重なり、売上高、営業利益ともに前年同期を大幅に下回りました。

化成品関連では、原料及び物流費上昇分の価格転嫁を進めたことから売上高は前年同期を上回りましたが、反動による数量減や燃料高騰の影響等を受け、営業利益は前年同期を下回りました。

以上の結果、エラストマー素材事業部門全体の売上高は前年同期に比べて125億16百万円増加し1,114億12百万円、営業利益は前年同期に比べて15億11百万円減少し93億31百万円となりました。

#### (高機能材料事業部門)

高機能樹脂関連では、医療用途向けの需要は堅調でしたが、大型テレビ向け等で顧客の在庫調整が発生し、光学フィルムの販売が振るいませんでした。この結果、高機能樹脂関連全体の売上高、営業利益ともに前年同期を下回りました。

電池材料関連では、市場は総じて回復に向かってはいるものの、民生向け需要に一服感が見られたことに加え、LIB原料の調達難や価格高騰による顧客の稼働率低下等の影響を受け、出荷は前年同期並みで推移しました。この結果、売上高は前年同期を上回りましたが、原料および燃料高騰の影響や新製品開発費用の増加等により、営業利益は前年同期並みとなりました。

化学品関連では、合成香料、特殊溶剤用途ともに需要が堅調に推移したことに加え、為替円安の影響並びに原料及び物流費高騰分の価格転嫁を進めたことにより、売上高、営業利益ともに前年同期を上回りました。

電子材料関連では、半導体メーカーが高稼働を継続し需要は堅調に推移したものの、一部製品において外部委託先の供給能力不足による出荷減が発生した影響を受け、売上高、営業利益とも前年同期を下回りました。

トナー関連では、需要に一服感が見られたものの、為替円安の影響により売上高は前年同期を上回りましたが、原料の高騰や棚卸資産の評価損等により、営業利益は前年同期を下回りました。

以上の結果、高機能材料事業部門全体の売上高は前年同期に比べて、24億81百万円増加し565億62百万円、営業利益は前年同期に比べて23億83百万円減少し116億36百万円となりました。

#### (その他の事業部門)

その他の事業においては、子会社の商事部門等の売上高が前年同期を上回りました。

以上の結果、その他の事業部門全体の売上高は前年同期に比べて40億5百万円増加し316億11百万円、営業利益は前年同期に比べて5億77百万円減少し7億19百万円となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当四半期連結会計期間末の資産合計は前連結会計年度末に比べ、407億91百万円増加し、5,254億51百万円となりました。前連結会計年度末との差の主な要因は、受取手形及び売掛金や商品及び製品の増加等によるものであります。

(負債)

当四半期連結会計期間末の負債合計は前連結会計年度末に比べ、168億3百万円増加し、1,796億27百万円となりました。前連結会計年度末との差の主な要因は、支払手形及び買掛金の増加等によるものであります。

(純資産)

当四半期連結会計期間末の純資産合計は前連結会計年度末に比べ、239億88百万円増加し、3,458億24百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、最近の業績動向を踏まえ、2023年3月期の連結業績予想を修正いたしました。

詳細については、本日(2022年10月31日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	47,271	28,164
受取手形及び売掛金	78,806	89,692
電子記録債権	3,692	3,400
商品及び製品	66,076	89,806
仕掛品	6,652	6,285
原材料及び貯蔵品	20,348	22,151
未収入金	41,156	47,511
その他	11,044	11,016
貸倒引当金	△99	△104
流動資産合計	274,947	297,921
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	46,706	46,505
機械装置及び運搬具（純額）	38,995	37,307
土地	18,151	18,255
建設仮勘定	10,153	18,578
その他（純額）	4,293	4,651
有形固定資産合計	118,299	125,296
無形固定資産		
その他	3,249	4,598
無形固定資産合計	3,249	4,598
投資その他の資産		
投資有価証券	80,729	90,055
繰延税金資産	616	704
その他	7,040	7,097
貸倒引当金	△219	△219
投資その他の資産合計	88,166	97,636
固定資産合計	209,713	227,530
資産合計	484,660	525,451

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	79,833	94,369
電子記録債務	3,161	3,225
短期借入金	8,960	12,860
1年内償還予定の社債	10,000	—
未払法人税等	7,042	6,036
賞与引当金	2,823	2,064
修繕引当金	3,275	7,829
その他の引当金	100	72
その他	23,458	28,062
流動負債合計	138,653	154,516
固定負債		
繰延税金負債	3,243	5,125
退職給付に係る負債	13,602	13,995
修繕引当金	2,021	—
その他の引当金	69	45
その他	5,237	5,945
固定負債合計	24,172	25,111
負債合計	162,824	179,627
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	24,211	24,211
資本剰余金	19,162	19,137
利益剰余金	272,679	279,016
自己株式	△23,000	△19,024
株主資本合計	293,053	303,340
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21,186	25,280
繰延ヘッジ損益	2	△7
為替換算調整勘定	4,767	13,858
退職給付に係る調整累計額	△384	△374
その他の包括利益累計額合計	25,570	38,757
新株予約権	126	88
非支配株主持分	3,086	3,639
純資産合計	321,836	345,824
負債純資産合計	484,660	525,451

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	179,075	197,417
売上原価	119,178	135,721
売上総利益	59,896	61,695
販売費及び一般管理費	34,946	41,511
営業利益	24,951	20,184
営業外収益		
受取利息	61	89
受取配当金	1,298	1,778
為替差益	—	2,157
持分法による投資利益	66	48
雑収入	549	440
営業外収益合計	1,975	4,512
営業外費用		
支払利息	65	49
為替差損	43	—
休止固定資産減価償却費	88	137
雑損失	152	110
営業外費用合計	347	297
経常利益	26,578	24,400
特別利益		
固定資産売却益	2	0
特別利益合計	2	0
特別損失		
固定資産処分損	242	31
減損損失	28	232
投資有価証券評価損	179	—
投資有価証券売却損	224	—
関係会社出資金評価損	—	99
その他	6	32
特別損失合計	679	395
税金等調整前四半期純利益	25,901	24,005
法人税等	7,359	6,372
四半期純利益	18,542	17,633
非支配株主に帰属する四半期純利益	148	215
親会社株主に帰属する四半期純利益	18,394	17,419



## (四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	18,542	17,633
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	370	4,094
繰延ヘッジ損益	△1	△9
為替換算調整勘定	2,345	9,150
退職給付に係る調整額	△104	10
持分法適用会社に対する持分相当額	17	280
その他の包括利益合計	2,628	13,525
四半期包括利益	21,170	31,158
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	20,975	30,605
非支配株主に係る四半期包括利益	195	553

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	25,901	24,005
減価償却費	9,846	9,544
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△112	△829
修繕引当金の増減額 (△は減少)	△1,574	2,533
受取利息及び受取配当金	△1,360	△1,867
支払利息	65	49
為替差損益 (△は益)	117	△741
売上債権の増減額 (△は増加)	△3,778	△5,724
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△9,514	△21,016
仕入債務の増減額 (△は減少)	17,137	10,441
その他	△6,259	△2,751
小計	30,469	13,644
利息及び配当金の受取額	1,646	2,084
利息の支払額	△67	△77
法人税等の支払額	△7,738	△7,341
その他	40	△7
営業活動によるキャッシュ・フロー	24,349	8,303
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△9,357	△11,091
無形固定資産の取得による支出	△314	△1,835
投資有価証券の取得による支出	△839	△2,497
貸付けによる支出	△1,282	△114
長期前払費用の取得による支出	△259	△565
その他	△141	△131
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,190	△16,234
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	3,900
社債の償還による支出	—	△10,000
配当金の支払額	△2,406	△3,211
非支配株主への配当金の支払額	△15	—
自己株式の取得による支出	△0	△3,989
その他	△294	△414
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,715	△13,715
現金及び現金同等物に係る換算差額	693	2,192
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	10,136	△19,454
現金及び現金同等物の期首残高	48,152	44,521
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	0	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	58,288	25,067

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

## I 前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	エラストマー 素材事業	高機能材料 事業	計				
売上高							
顧客との契約から 生じる収益	98,896	54,082	152,978	27,606	180,584	△1,510	179,075
外部顧客への売上 高	97,646	54,067	151,713	27,362	179,075	—	179,075
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	1,250	15	1,265	245	1,510	△1,510	—
計	98,896	54,082	152,978	27,606	180,584	△1,510	179,075
セグメント利益	10,842	14,019	24,861	1,296	26,157	△1,206	24,951

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、R I M配合液、塗料等の販売等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△1,206百万円は、セグメント間取引消去32百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,238百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. その他の源泉から生じる収益の額に重要性がないことから、顧客との契約から生じる収益と区分して表示しておりません。

5. 一定の期間にわたり移転される財又はサービスから生じる収益は重要性がないことから記載しておりません。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

金額の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

## Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	エラストマー 素材事業	高機能材料 事業	計				
売上高							
顧客との契約から 生じる収益	111,412	56,562	167,974	31,611	199,585	△2,169	197,417
外部顧客への売上 高	109,600	56,552	166,152	31,265	197,417	—	197,417
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	1,812	10	1,822	346	2,169	△2,169	—
計	111,412	56,562	167,974	31,611	199,585	△2,169	197,417
セグメント利益	9,331	11,636	20,967	719	21,686	△1,502	20,184

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、RIM配合液、塗料等の販売等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△1,502百万円は、セグメント間取引消去22百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,524百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. その他の源泉から生じる収益の額に重要性がないことから、顧客との契約から生じる収益と区分して表示しておりません。

5. 一定の期間にわたり移転される財又はサービスから生じる収益は重要性がないことから記載しておりません。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「エラストマー素材事業」、「高機能材料事業」において減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては「エラストマー素材事業」70百万円、「高機能材料事業」162百万円であります。